

第1回ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 平成29年5月13日（土） 10時～12時
- 開催場所 近隣センターこもれび
- 参加者 20名
- 出席者 星野市長、川村総務部長、大畑企画財政部長、四家市民生活部長、
渡辺環境経済部長、大谷建設部長、渡辺都市部長、他管理職9人

■懇談要旨

市民：水害対策のバイパス管についてです。バイパス管とは雨水管のことですが、雨水管を通して雨水等が手賀沼に流れていくわけですが、他の地区でも設置されています。若松の雨水管は、写真をご覧くださいとわかるのですが、水位がYP2.2とありますが、本来は、水位の上に雨水管があるわけなのですが、今は水位の下にあるわけで、潜ってしまっていては逆流するわけです。低い位置にあるのと地盤沈下している、低段地区とも言いますが、そういう地区に、また造ろうとしている。これは、問題であり、税金の無駄使いであります。

雨水を住宅地区に入れるという、とんでもないことなのです。外水は、堤防の沼側に抑え込むのが基本ですが、その基本がなっておりません。10億円で1,000mの管を3本つくろうとしています。とんでもない税金の無駄遣いであって、ポンプにお金をかけるべきであります。

決定的な写真を見てください。この写真は第2ポンプです。3月に掃除をするということで、バキュームカーで水を抜きましたが、柵の上部の黒くなっているところまで、水がきているのです。

つまり、逆流しているわけです。自然流下するための雨水管が逆流している、地盤沈下した特殊な地形にあるのはおかしいのです。

建設部長：若松地区の水害対策については、地元の水害対策協議会と協議しながら長年進めてきたところです。7月に水害対策協議会と協議を行う予定ですので、その中でお答えさせていただきます。また、週明けでも必要であれば担当職員を行かせ説明させていただきます。

市民：その必要はないです。皆さんが知らなければならないことです

市長：若松地区には2つの自治会がありまして、その2つの自治会が1つになって水害対策委員会があります。その中で役員の方々と意見交換しています。水害の解消は短期間で完了できるものではなく、優先順位をつけて根本的な解決方法と応急措置などに分けながら実施していきます。具体的には、県の実施している若松の護岸堤工事と合わせながら自然流下とポンプの工事と分けながら進めてきました。

市民：ゴミの関係で質問します。私どもの地区に高齢でゴミ置き場まで持っていけない人が申請をすることで、家において頂けることがあるのかといった制度について教えてほしい。

市長：ゴミ集積場所は地元で管理していただいています。高齢化が進んできていることは事実ですが、ゴミ収集一軒ずつ伺ってすることは難しいと思います。これは実際に大阪で実施しているかと思いますが、人件費が膨大にかかることが問題だと思います。後ほど担当課より詳しく説明させますので、ご連絡先をお知らせください。

司会：本件については、後ほどクリーンセンターからお答えします。

市民：天王台駅の南口ロータリーの中庭園でボランティアを募って美化活動を実施する予定ですが、あの場所に水道施設がないので、何とかしてもらいたい。もう一つは草花を植えているが市からいただくのではなく、地域活性化の観点から地元商店の花屋さんから購入したいが、そういった便宜を図っていただきたい。

都市部長：花材については一括で購入することでかなり安く入れることができます。ただし、地元花屋さんで購入しても金額に大差がない場合は検討させていただきたいと思います。いずれにしても、購入につきましては、持ち帰って検討させていただきます。

市長：駅前に花を植えていただいているのは他の駅でもあることから一括購入した方が安く購入できます。購入先は市内の花屋さんとしております。駅利用者の皆さんから大変好評を得ている事業ですのでこれからも続けていきたいと思っていますのでご協力をお願いします。水道施設につきましては、場所的に難しいかなと思いますが、持ち帰って水道局と協議し、後ほど回答させていただきたいと思っています。

市民：10年前から下水道がつながるのは何時か何時かと待ち望んでいます。40年近くたっている浄化槽の修理が必要に迫られていることがあっちこちであると思いますがこういったことを考えたうえで計画してほしい。

また、天王台駅について、もう少し便利になってもいいのかなと思います。成田線の運用と合わせて、10両のうち5両を天王台、5両を取手行きにするなどいろいろ考えられると思います。

建設部長：浄化槽の老朽化については、私共も認識しておりまして、なるべく早く行っていきたいという考えはございます。ただ、下水道を整備していく上で、市のお金だけでなく国の交付金の部分もございますので、この場で何時までにはお答えできませんが、出来る限り早く行っていけるように努めてまいります。

市長：下水道につきましては、国の補助金も関わってきますが、東日本大震災以降の国の交付金が尻つぼみになってきていて、建築資材や人件費が高騰してきております。同じ予算ですと距離が短くなってしまうということになってしまいます。あと、区画整理が終わっている地区で下水道が整備されていないのもおかしいだろうということで、下ヶ戸の西地区や中峠台といったところから整理をしていますが財政が厳しい中、なかなか進まない状況です。お話のありました場所もあと少しの距離でつながるエリアと認識しておりますので、もう少し待ってください。成田線の増発については、交渉は続けていきます。私が市長に就任した当初は、天王台1駅と成田線8駅の利用者が同じであった事で成田線の増発が難しかったことや、最近では北新田の中の有料橋が無料になり、天王台に車を止めて駅を利用する人が減っていることなどから、交渉としては難しくなってきました。増発はなかなか難しいと思っています。ただし、現在、我孫子天王台を通過している特別快速をTXが開通したことでこれを廃止し、快速を増発することで、結果便数が増えることが考えられると思っています。朝夕のラッシュ時に止める時間を長くしてほしいと考えています。いずれにしてもJRも民営化になってからは、利益が出なければ要望を飲めない状況になっていますが、今後も成田線・天王台駅の増発は、きちんと取り組んでいきます。

市民：1点目は、みんなが安全に暮らす街づくり水害対策についてです、天王台6丁目は暫定貯留施設が完成ということですが、ぜひ計画通り進めていただきたい

と思っています。それと今年度工事説明会を実施してもらいたい。2点目は省エネルギー推進事業のことで、自治会が維持・管理している街路灯のLED化の補助金について説明してほしい。3点目は、下水道事業についてですが、天王台6丁目地域でも遅れています。国道356我孫子中から我孫子中央郵便局の間がいまだみんな古い浄化槽で下水道になっていません。ぜひとも本地区での本下水道推進計画を進めてください。

建設部長：天王台6丁目地区の貯留施設は天王台南公園に1,500 m³で整備中です。今後も、水害対策を進めていく為に工事の説明会を治水課と自治会関係者と調整します。2点目の街路灯LEDの補助制度につきましては、通常10アンペアで14,800円です。補助の内容などはこれまで通りです。申請につきましては、7月ごろに自治会から申請書を上げていただくことになっています。3点目の下水道につきましては、毎年天王台地区の自治会より要望を頂いているところです。11期を始めています。国の交付金を活用して事業を進めていること等、条件はありますが、なるべく早い時期に進めていければ、今後も計画通り行っていきます。

市民：紙に書いてきたものが3点ほどありますがお渡ししますのでご覧になっていただければと思います。それ以外で気になった点を申し上げます。我孫子の若松に引っ越して5年になります。この地区はわりと専業主婦が多いように思います、共働き世代のための保育園の整備も大事だが、あびっこクラブのような、専業主婦のために子供を一時的に預かってくれることを充実していった方が、よりターゲットをとらえているかなと思います。小中一貫推進の中でICTの活用、アイパットを活用する事業がありますが、ベネッセのこどもチャレンジなどにもアイパットを使用します。その内容は計算ドリルや漢字ドリルのようなもので、紙でできるものは紙で行ったほうが良いと思います。小学生から眼鏡をかけた子が見受けられる。せめて大学に入るまでは裸眼でいられるよう、子供を育てる我々としては、アイパットの活用を図っていくのなら、最小限にすませて子供の目を守る事が大切だと思います。

市長：市内全体を見て計画を立てています。それぞれの地区のニーズ（人数）調査を3年に一度実施しています。昨年には天王台地区に2つ140名の施設をオープンしました。当然3年ごとのニーズ調査をしてまだ必要なのか調査していきます。

このようなことから市としては、めったやたらに作っているのではないことを理解してほしい。市内小学校では、根戸小・第4小・第3小では学童に入れない子が数人いたが低学年はすべて学童を利用しています。また、あびっこクラブは各校75%の子供たちが登録しています。保育園と同様に高齢者向け施設の需要についても、3年に一度ニーズ調査を実施しています。布佐地区に障害者用グループホームがオープンしますが、障害者を対象にした施設はどこに作るのがいいのか、検討はしております。

また、アイパットを導入して小中一貫教育を進めています。ICT教育の一環です。実際には一人1台ずつアイパットを持たせて使い方を教えているわけではありません、班ごとに見ながら討議するために活用しています、活用方法は運動では跳び箱の飛び方や、マット運動など出来ない子にはどうしたら出来るようになるのか、アイパットを活用してみんなで話し合うためのツールとして使っています。

市民：女子オープンゴルフの時に東我孫子駅をメイン駅として利用してもらったほうがいいと思いますが。

市長：もともと、東我孫子駅は地域の住宅のために出来たものではないこと、駅前のロータリーと言っているところは、ロータリーではなく広い道路です。駅の歴史では、旧国鉄時代に我孫子ゴルフ場の隣接に作ったもので、ホームも狭く危険であること。地域住民のために天王台駅を作ったこと。市としてJRと交渉していく中ではこんなに近い場所に2駅あることが珍しいということで、東我孫子駅が廃止にならないよう交渉しているという経緯があります。なお、今回のゴルフでは一般のお客さんを天王台北口から五本松公園にシャトルバスで誘導していく予定で協議していますので、ご理解ください。

市民：我孫子には4匹のマスコットキャラクターが揃い踏みしている。地元天王台の「天ちゃん」「ふさだだしお」「あびかちゃん」「手賀沼のうな吉さん」がある。もっと上手に使ってほしい。市内には57の教育施設がある、保育園・小学校等だが朝とか昼に放映体制をして、我孫子市民の歌を流し同時にそのデモンストレーションとして4匹のマスコットキャラクターを動員していく。世界に我孫子を発信していく為に東京オリンピックを上手に迎えるよう見据えて、世界に我孫子を

発信するためにも上手に活用して行ってほしいという提言を申し上げます。

市長：マスコットキャラクターについては、我孫子市では「うなきちさん」一つです。

「ふさだだしお」は6年前の震災の復興キャラクターとして、地域の復興のため布佐地区の人が考えたキャラクターです。「てんちゃんは」天王台地区の地域キャラクターで、天王台地区で活用しています。「あびかちゃんは」カップ祭りのキャラクターですのでカップ祭りを中心に使っているキャラクターです。うなきちさんは珍しく、おじいさんキャラで特に子どもたちに大人気で選ばれました。現在は3体でPRしています。各地区でいろいろ活用を図っていただければいいと思っています。

この、ふれあい懇談会に「うなきちさん」がいたら、子どもが来るとは思っていない。子どもたちと大人が一緒の場で意見交換することがいいとは思っていません。子供たちには子供たちがいろんな意見を持っているところがあって、私も副市長も議会の間などで学校に行って給食を食べながら子供たちと、また年に一回親御さんと意見交換を定期的に行っています。若いお母さん方や子供たちとは、限定されたテーマにすることで、多くの意見が発言しやすくなっていると思います。テーマがないとなかなか子供たちも迷ってしまい、意見が出しづらい状態です。いろいろな形でこれからも出向いていくスタンスとします。ふれあい懇談会としてはいろいろな意見を頂く場として今後も続けていきたいと考えています。

私としては子どもに対しての数とか質は全然違うことだと思っています。我孫子では、昔は1,200人ほど生まれていましたが、去年は800人ほどしか生まれておりません。我孫子に生まれなくても我孫子に住んでもらえる手法を選択していきたいと思っています。質という表現は私としては抵抗がある言葉ですが、子どもたちには目標をもってもらいたい、夢を大きくもって育ててほしいし、20歳を迎えるころには自分自身の自慢話ができるようになってほしい。夢や地域の自慢が出来ない事は、寂しい事であると思っています。

また、学力向上についても配慮していきます。仕事につきたいと思ったときに基礎学力がないというのは大きなショックで挫折してしまうことになります。

途中で挫折することがないよう、夢や目標を達成するために様々な経験をさせ、例えば JFA 日本サッカー協会の夢先生など体験・経験してもらうことなど、音楽部門や芸術分野スポーツ分野であろうと様々なチャレンジをしてもらう。

それを支援するのが市であり、教育委員会の役目だと思っています。それを作るためにも地域で協力し、サポートをしていってほしいと思っています、そのためにあびっこクラブを用意して、それぞれの地域の皆さんに協力してもらっています。

子ども達に聞いたところ、参加してくださるおじいちゃんにこんなことを教えてもらった、おばあちゃんから今日本を読んでもらったなど、あびっこクラブに参加している子供たちの笑顔を見てよかったと思っています。逆に参加されているおじいちゃん、おばあちゃん方は、風邪を子ども達にうつしては大変だから、健康管理はしっかりしなければと言っております。

当初2校程度だった、あびっこクラブが現在では13校全校に用意できてよかったと思っています。これからも子どもたちが、夢や希望をもって我孫子で育てよかったと自慢話ができる子どもたちに育ててほしいと思っています。

市民：我孫子市民の歌の普及についてもお願いします。

市長：我孫子市の誕生日は7月1日です。この時には学校現場や市役所でも流しています。成人式でも早めに来た人たちに待っている間、BGMとして流しています。

また、市民の歌を練習したいという話があったことから、DAMのカラオケに無料で提供してもらえるようにしましたので、ぜひカラオケに行った時には選曲してみてください。これをしないとエントリーされなくなってしまいますので、ぜひカラオケに行った時には選曲してください。

市民：利根川沿いを散歩していたら、我孫子手賀沼浄化反対というすごく大きな看板がありましたがお存知ですか。

また、手賀沼の水を浄化するため利根川に流したら東庄町のシジミが全滅したと近所の人が出てきました。手賀沼の浄化はすごく良いことだったので、そのような話しを聞いて絶句してしまいました。市はこのような看板をご存知ですか。道の駅の近くで漁協が出しているものでした。

市長：看板は後で確認させていただきます。

苦情自体は来ていません。実際に手賀沼の水を流して、シジミが全滅したのか因果関係が本当にあったのかどうか、わかりません。昔はワーストワンでしたが、

今は、一番水質が悪いのは印旛沼です、手賀沼は4位から11位を行き来しています。手賀沼の沼南側に広い道路があります。あれは北千葉導水事業によるものです。柏市の沼南側に利根川と江戸川を3メートルの管で接続してあります。

その上部を利用しているのがあの広いジョギングやサイクリングで利用している道路です。これは利根川と江戸川の水量を管理していくものです。その利根川の水を柏のビジターセンターから利用して手賀沼に毎秒10トンの水を流しています。この水は手賀沼の木下あたりで取水して、その下流で印西市へも流しています。そこより下流になるのが東庄町です。ということは、現在では利根川の水質をよくさせるのに手賀沼の水を流さないというのは同じ利根川の水を流しているのに、理解できないです。

とにかく、事実確認をさせていただきます。